



女五首

文苑

佐々木信綱

老女

とつぎたる都の孫にあひがてら

上野とやらの花を眺めむ

工女

つかれたる工女のむれのゆきすすきて

堀はた寒きさ夜あらし哉

漁婦

かつを船歸る渚の薄月夜

何れ我背の舟にかあるらん

伯母君

はつもの、峯のさわらび^{つと}土産にして

伯母君ましぬ桃さける朝^{あした}

少女

舞扇半ひらきては、えめる

おもわうつくし花の下かけ

吾孀の歌

た、き、生

あな、かみつよに

しこのしこくさ

やまとたけるの

みこはしづしづ

うすひのみねに

ひがしのかたを

いづのふなぢに

さかまくなみの

千ひろのそのの

なかきおもひに

ひめのみさはを

わがつまはやと

あらぶれし

うちきはめ

みなにます

かへるとに

たちたまひ

みたまひき」

かせわれて

うなばらや

もくずばら

かくろひし

おもひでに

のたまひき」